

RETENTION PLUS

Retention Plus (リテンション・プラス) は、四つのR (リテンション、リクレーション、リバイバルとリフォーメーション) に関する記事やニュースを通して支部内の各教会のために、リテンション・プロジェクト・コーディネーターや牧師たちを力づけることを目指しています。間近なイエスの再臨に対して教会員を備えをさせ、具体的な行動へかきたてるよう、読者を目覚めさせ励ますことを願っています

Retention & Reclamation Committee Members

Chairman

Jairyong Lee

Secretary

Fukui Teru

Members

Barbara Choi
David Ripley
Lynn Ripley
Kwon JohnGHaeng
Joo MinHo
Han SukHee
Kim SiYoung

Main Editor

Fukui Teru

Assistants

Oh MyoungSook
Kim MinKyung



Northern Asia-Pacific Division
of General Conference

P. O. Box 43. Goyang IIsan,
410-600, Republic of Korea
Tel: 82-31-910-1500
Fax: 82-31-919-4412
Email: tfkui@nsdadventist.org

あなたの教会は、どんな種類の土ですか

子供の頃、家には庭がありました。そこに、私たちはトウモロコシや、豆、大根、赤大根、ジャガイモ、オクラ、トマト、南瓜、とかメロンを植えました。夏の間は、いつも新鮮な食べ物を楽しくいただきました。でも、雑草を抜いたり、野菜の世話をするのはけっして楽しかったわけではありません。

庭の土は、端から別の端まで見るとかなり違ってきます。一方の端の土は、黒くて何でもよく育ちそうです。反対側の方に行くと、次第に土はやせてきて、何を植えてもほとんど育たないような土でした。

聖書の中で、イエスは庭づくりについてお話をなさいました。ルカの8章の物語を見て、教会のリテンション(教会員の定着率)について学んでみましょう。

ルカ8章5～8節「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。ほかの種は石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、押しつぶさってしまった。また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。…」

アドベンチスト教会を見ると、ある教会はとても良く成長して収穫をあげ、弟子を定着させています。このことは、イエスが庭づくりについて話された物語と比較することができると思います。それぞれの教会は、ひとつの土/文化を持っています。その教会が維持している土/文化は、どのように成長し、教会員を定着させるか、あるいは縮んでしまい教会員を失ってしまうかを決定するのです。

ここに、4種類の土/文化があります。

1. 硬く固められた道
2. 石だらけの地
3. 雑草や茨の地
4. 良い土地

自分自身に尋ねなくてはならないのは、私たちの教会はどんな土/文化を持っているかということです。

何の耕作もされていない、硬く固められた土/文化があって、多くの人の足がその土/文化を固めてきたので新しい種が育つ見込みがありません。

あまりにも沢山のこの世の硬いものが良い土を締め出して、新しい種が育たないよ

うにしている岩の土/文化があります。

沢山の雑草や茨があって、日陰を作り、どんな新しい種も受け入れず窒息させて、庭の中で自然と大きくなれないようにする、土/文化があります。

でも、良い土地/文化があって、落ちた種に用意された場所があって、発芽して芽を出し、長く収穫をもたらす成長を遂げます。

有難いことは、もし自分の教会が最善の土/文化でないと分かったら、耕作し、肥料を撒き、良い収穫をもたらす土/文化に開発することができるということです。庭の手入れをし、神が地域社会に種を蒔くためにそれを準備することは大変な仕事です。困難な仕事はやる価値があるからです。収穫とその実りを定着させることはみ言葉と神の御心によります。

弟子を作り、教会に留めることはあなたの教会の土/文化によって決まります。評価をして、あなたに出来るすべてのことをなして、神がなさりたいことができる備えをしていることを確かめましょう。神は、あなたの教会に育つ種を与えようと、待ち構えておられるのです。

皆さんの教会で考えていただく、話し合いのための質問：

1. マタイ13：3～9、マルコ4：3～9、ルカ8：5～8を読んでください。祈って、自分の教会を表すのはどんな土/文化か、種を受け入れ、定着させる備えについて話し合ってください。
2. 皆さんの土/文化が、今の状態にあると信じる理由を述べてください。
3. その土/文化が、神のくださる種を受け取る備えができる時、あなたの教会はどんな様子になっているか描写してください。
4. あなたの教会の土/文化が種を受け入れて、成長と定着ができるようになるために必要なことのリストを作ってください。
5. あなたの教会が成長と定着にむけて最善になるために、土/文化を開発する時間軸の予定表を作ってください。

デイビッド・リプリー
牧師会会長
北アジア太平洋支部



香港の一人の青年の話

ミー・クオック（青年信徒、IT技術者）

（私は、メルボルンのゲイトウェイ教会のジョニー・ウォング氏からこの青年を紹介されました。この普通の青年に、こんな霊の力があるなど誰がわかるでしょう。でも、次の記事を読んでお分かりのように、引火すると次第に爆発を始めるのです。彼に自分自身を第三者のようにして何が起こったか、話を紹介して下さるようお願いしました。これは、彼自身の話です。文中、FASTという言葉が出てきますが、アメリカの一人の牧師が開発した、暗唱聖句を利用した、「生き生き弟子訓練講座」のことです。-福井輝）

2006年の初め、一人の青年がゲイトウェイから戻ってきました。初めは彼一人だけでしたが、今は30名以上のグループになりました。最初の頃、FAST（生き生き弟子講座）で10名が訓練を受けましたが、次第に10人全員がグループと教会に残り、百パーセントのリテンション（定着率）で奉仕するようになりました。

現在、求道者も含む安定した2グループで、最近3番目のケアグループが誕生しました。去る2014年には、復活祭の時期に伝道キャンプを開催し、25名のSDAではない人たちと、15名のSDA信徒が集まりました。この25名の求道者は専門職の若い世代で、投資銀行家や、修士号を持って、Microsoftなどの大きな企業で働いている人たちです。同じ年の、11月21日には二週続けて週末聖書セミナーを開催し、100名の求道者が集まりました。全ては、一人の青年から始まったことです。

どうして、このようなことが起こったのでしょうか。

トミーは、2006年に香港に戻ってきて、まもなく教会の青年リーダーに任命され、青年プログラムを計画するように頼まれました。沢山の計画を実行しましたが、メルボルンにいた時と違って、一人の人も救われませんでした。しまい、疲れ切ってしまい、ほとんど燃え尽き状態でした。神様は、でも、新約聖書の方法に戻るよう励まされ、一人の人を対象に焦点を合わせるようになり、メルボルンで最近バプテスマを受け、彼と同じように香港に戻ってきたデイブと組むようになりました。メルボルンでやったように、彼にFASTを使い時間をかけて訓練しました。次第に、彼ら2人は、専門職を持ってメルボルンから帰ってきて、他のSDA教会にいる、アレックスとハワードと組むようになりました。

この四人の青年たちは一緒に集まって祈るようになり、ついに聖書の初代教会の方法や、エレン・ホワイトの教えに従って、香港で救霊する教会のビジョンを描くようになりました。

他に、6人のアドベンチスト青年（学生や働いている人たち）を見つけ、10人でFASTのSurvival Kit、Basic Training、それにTeam Tacticsを全部学びました。最後に、彼らはSDAの存在理由と三天使の使命の緊急性についてリバイバル集会を持ちました。そして、一つ心になって、これから導く求道者を求めて祈り始めました。

当時聖書講堂教会（Bible Auditorium Church）の牧師は、ヘイウッド・チャム牧師（現在、教区総務）でと



ても好意的でした。そこから、伝道ケアグループを開始して、それ以来継続して成長を続け、今日、3つのグループに30名以上の仲間がいます。

過去3年間に7名の青年がバプテスマを受けました。大学生、医師、IT技術者、ファイナンシャル・プランナー、トレード・マーケッター、会計士、それに上級製品設計士です。新しくバプテスマを受けた人は皆FAST弟子訓練講座に入ります。現在、最初にグループを始めた中心メンバーたちの定着率は100%で、新しくバプテスマを受けた人たちは80%以上の定着率の状況です。

昨年、2014年に、みんなで4月の復活祭の時期に伝道キャンプを開催したところ、42名のうち25名の求道者が与えられ、11名が初めての人たちで、ケアグループや人のつながりで紹介されてきた他の人たちもいました。神の恵みにより、その内7名がバプテスマを決心しました。同じ年の11月21日には二週続けて週末の聖書セミナーを行い、8回の集会を通し、神様は100名の求道者を与えてくださいました。8回の集会の平均出席者は79名でした。全体を通して、求道者は約50%でした。21名が4回以上出席し、13名がイエスに従い、安息日を守る応答をしました。7名は聖書研究を始める決心をし、6名が近くバプテスマを受けたいと応答しました。

エレン・ホワイトは記しておられます。「神は、伝道地に入っていく献身した、清く、大きな心を持ち、広い頭脳を持った、謙遜な人々を求めておられる。」

どうぞ、救霊と新しい教会を作る幻をつかめるよう、彼らのために続けて祈ってください。

リテンションのために働いている二つの力

リテンションの課題に向けて、二つの力が働いているように思われます。一つは、否定的なもので、もう一つは肯定的なものです。前者はむしろ諦め気味で、低い定着率をありのままに、受け入れていこうとするものです。事実、この課題に取り組むことは、大変な、途方もなく大きな仕事です。後者は、この課題に向かって全的に取り組み、変えていこうとするものです。それは、古い有名な小説に出てくる、あのドン・キホーテを思わせます。いや、ちがいます！ドン・キホーテなどではありません。迷っていく一人の魂もお見捨てにならない、キリストのような牧師です。

マタイ13章3～9節の種まきのたとえ話を讀むと、その方々はまったく同意します。教会から離れていく多くの人がいるのは、なるほど不思議なことではありません。聞いている人の心が、痩せているのです。石地の土、いばらの土、それに良い土でしょう。硬い道の土などは忘れましょう。どうせ、その種はバプテスマすら受けないのですから。つまり、三分の一の土です。その良い土だけが、最後に残るんですよ。ああ、三分の一とは、まさしく私たちの教会のリテンション率ではありませんか。これは、聖書的な原則なのではありませんか、33%の定着率！？（こんなに考えたことはありませんか）これは、イエス様の警告のメッセージだということを、忘れてはいけません。私たちが、どのように聞くか、非常に注意していないと、そのような実をもたらさない土の一つになるかも知れません。これは、ちょうどリプリー先生が（この号の記事参照）強く勧めておられるように、土を変える必要があると訴えるメッセージです。

しかしながら、ルカ15：4～7のたとえ話、あるいはヨハネ10：11～16の良い羊飼いの話は、一人の失われた魂をどんなに熱心に捜し求めるべきか励ましてくれます。それがどんな種類の羊なのか、その大きさや、性質や、色とか羊飼いは気にしていません。ただ、羊が失われたことが問題なのです。この羊飼いの失われた魂に対する激しい熱心さに感動します。これが、リテンションに真剣に関心を持つ牧師たちの模範です。たとえどんなに小さな魂でも、無視することができないんですね。

しかしながら、皆さんは失われたその羊の叫びが聞

こえますか。どんなに弱い叫びであっても、それが聞こえる場所に来ようと、努力します。この羊は、叫ぶことを忘れたのかも知れません。あるいは、叫び方を忘れていないでしょうか。わがままな状態で過ごしているのに満足し切っているかも知れません。羊館がついに彼らを見つけた時でさえ、「あなたに関係ないでしょう。どこか行ってください」と言うかも知れません。でも、この羊飼いはその魂を諦めることはできないのです。

多くの教会員や牧師は、教会を離れた人々はもう、帰ってくることも、キリスト教の教えの大切なことも忘れてしまっているかと思っているようです。決してそんなことはありません。統計によると、彼らの80%が今も聖書や、エレン・ホワイトの権威を信じています。大多数の人は、教会でつまづき、教えに従うのは自分にはできないと不十分さを感じたり、聖書の教えは自分には当てはまらないと感じています。優しい手で、誰かがその人たちの心に触れてあげることさえできたら、教会の玄関をこえて交わりに戻ってくることができると、いうのです。誰が、その小さな叫びや、つぶやきを聞いてあげる耳があるでしょうか。みんな、イエスのみ顔をはっきり見上げて、すぐにでも救いが用意されていることを理解しなければなりません。

ここに、小グループが大切であり、力がある理由があります。小グループはこれを成し遂げる組織的な方法です。牧師の耳は、二つの耳があっても、自分だけで全部の叫びを捉えることはできません。教会員が訓練を受けて、叫びに心を配るよう彼らの耳も傾けねばなりません。ですから、リテンションは、その教会の教会員たちが、イエスのケアと、同じようなケアを熱心に行おうとする訓練を受けているかを示す、良い指標なのです。



福井輝

リテンション
プロジェクト
コーディネーター

編集後記

リプリー先生の明確な分かりやすい記事に感謝します。先生の記事には、いつも私たちが注意してはいてくれない、重要な問題点を教えられます。私たちが、何をしているか、どのようにしているかを、注意することによって、自分たち教会の文化を変えることができます。

トミーという青年が、とてもユニークな記事を送っていただきました。目を開かされる、とても霊的な記事です。私たちも、自分を、教会を変えることができるということ、主のみ手に本当にゆだねる時、今は一人しかいないところに、真理を求める人が百人も与えられるということを示してくれています。一つ、付け加えます。この青年が、来る長崎でのリテンション・サミットに来て、自分と友人たちに何が起こったか話をしてくれることになりました。他にも、素晴らしい報告をしてくださる数名のゲストが来ます。私たちが生き返らせてくださる聖霊を心から求める時、神が皆様を溢れるばかりに祝福くださいますように。長崎の、第二回、NSDリテンションとリクレーションサミットでお会いしましょう。 - 福井輝 / NSDリテンション・コーディネーター